

50 期(2024 年度)の振り返りと 51 期(2025 年度)の展望

はじめに

能登半島地震で幕を開けた 2024 年。復興のさなか 9 月には大雨による被害と、生活再建に向け一歩を踏み出したばかりの住民たちに、自然の猛威は容赦なく、なすすべが無い事を思い知らされた年でありました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興を心よりお祈りしております。

日本中をそんな暗いニュース一辺倒から救ったのがスポーツ界で、パリオリンピックにおいて海外開催最多の 45 個の金メダルを獲得した事や、今年も大リーグでは大谷翔平選手が史上初の 50-50 を達成するなど、明るいニュースを提供してくれました。

政治経済においては、秋に行われた衆議院選挙で 15 年ぶりの与党過半数割れになったことや、アメリカ大統領選挙ではトランプ前大統領が再選。また、日経平均株価はバブル期に付けた史上最高値を更新したことや、為替は一時 1ドル160円を超え、石油や食料品などを輸入品に頼る我が国において全ての商品が高騰するといった、波乱に満ちた一年であったと感じています。

総括

50 期の売り上げは前年度対比で一般建材部門が 20.7%減の 3 億 1042 万円、製造直売が 10.8%減の 2 億 2963 万円で、トータル 16.8%減収の 5 億 3988 万円となりました。

また、営業利益は 47.4%減の 2325 万円、経常利益は 5673 万円となり、41.0%の減となりました。

50 期から完全週休二日制を導入した事により、稼働日数は 10%程度減少しました。製造業にとって稼働日数は生産量と直結するため、ある程度の売り上げ減は織り込みをしていたことと、秋から製作を開始した浮棧橋の大型物件の売り上げが 51 期に持ち越された事により、結果的には減収減益となりましたが、51 期に計上されるため想定の範囲内と考えています。

何より社員が家庭において、育児や介護などで家族と過ごす時間が増え、ワークライフバランスが取れる事により、全従業員が健全で充実感を味わって働ける環境を作れたことは、大きかったと感じております。

コロナ明けで動き出した中国経済も不況の波を乗り越えられず、鋼材市況はだぶつき気味ではありますが、円安影響で高値が続いており、51 期も高値安定で一進一退を繰り返すと考えています。

財務的側面

50 期も財務指数は健全な数値を示しています。代表的な数値を以下に示すと、流動比率:615.80% 当座比率:450.82% 固定比率:54.3% 自己資本比率:87.0% 売上高経常利益率:10.51%などとなり、依然として高い安全指数を維持しています。

50 期も、利益率が高く、現金決済であるインターネット販売が好調でありました。原材料や固定費などの経費上昇にも柔軟に価格変更が可能であるこの商品群を 1 品でも増やしていけるかどうか、今後の財務内容の安定に寄与する鍵になると考えています。

製造部直売の側面

50 期(2024 年度)の製造部直売売上高は 2 億 2963 万円で、前年比 90.4%、2436 万円の減収となりました。

製造直売扱いでお取引させていただいている防災商品メーカー 2 社様の売り上げはそれぞれ多少の増減があり、一部商品の受注が大きく落ち込んだことが影響し、7 期ぶりに 2 億 5 千万円のラインを下回りました。

両メーカー様共にその製品のほとんどが入札を介する公共土木工事向けですが、砂防工事・治山工事ともに入札不調や人手不足による工期延期をよく耳にした一年でした。

2024 年度の全国の土砂災害発生件数は 1434 件と前年とほぼ変わらない件数となりましたが、年初に壊滅的な被害があった能登半島地震により、石川県だけでそのおよそ半数にあたる 702 件の土砂災害が確認されました。

能登半島地震の災害復旧案件はまだ受注しておりませんが、復旧・復興のお役に立てる案件のお話をいただいた際には積極的にお応えしたいと考えています。

建材販売の側面

50 期の売上げは、3 億 1042 万円と前年度対比 20.7%の減収となりました。

50 期は大阪市より、2025 年に開催される関西大阪万博のプレイベントでもある「第 9 回メルボルン大阪ダブルハンドヨットレース」のゴール地点に使用する浮棧橋を受注することができました。

国内最大の国際外洋ヨットレースであり、万博という国内外から注目されるイベントに携わることができ、浮棧橋メーカーとして自信と誇りを感じています。浮棧橋の販売以来の受注金額ではありませんが、売上計上は 51 期へとずれ込んでしまいました。

減収の大きな要因は、この最大規模の棧橋の売上計上が来期に持ち越されたことと、この受注により通常受注品の納期を来期に持ち越していただいたこと、並びに 49 期 Y 社の大型物件に代わる案件が無かったことが大きな原因と考えています。

中小企業の消防設備の不備に焦点を当てた高利益率の新製品である防火水槽は、4 件の受注を頂き、現在仕様を交渉中の 2 件も受注がほぼ確定している事から、51 期も伸びていくと考えております。

コロナ禍に人気を博した焼き芋機の 50 期の売上は 690 万円と 3 割減となりました。焼き芋ブームは下火になったものの、根強いファンの居る分野の商品ですので、51 期も同程度の販売を見込んでいます。

人的側面

50 期は、大きな人の入れ替わりがありました。管理課のパート職員が 1 名、製造職員が 2 名退職。29 年間仕事に従事してくれた営業業務課の職員 1 名も定年退職となりなした。

また、製造職員に 20 歳の社員を迎えることができました。まだまだ覚える事が多いとは思いますが、その若さとガッツで早く仕事を覚えて頂けるよう、教育に力を注ぎたいと考えております。

製造設備・施設側面

50 期の設備投資は、C 棟天井クレーン 326 万円、榛原工場の立体倉庫の整備 120 万円、また、「エネルギー効率的利用推進事業補助金」を利用し蓄電池の設置に 240 万円投資いたしました。

51 期は、榛原工場の立体倉庫が収益を出せるよう改装したいと考えております。

また、地元産業の創設に寄与する為、計画中の松山蒸留所(仮称)建設及びウイスキーづくりに協力していきたいと考えております。

現在、世界で引く手あまたのジャパニーズウイスキー。そんな、世界の人々が手に取ってもらえる商品が、この宇陀市から発信されることを夢見ています。

終わりに

2024 年度、弊社は創立 50 周年を迎えることができました。これも一重に、ご支持いただいたお客様やご協力いただいた仕入れ先様、ご支援いただいた金融機関関係者様や地域の方々、そして苦勞を共にした歴々の社員の方々が経営理念を深く理解し、行動し続けて下さったお陰と深く感謝しております。

企業の生存率は 10 年で 1 割と言われている中、半世紀の間継続して事業を営んで行けたことも、創業当時から続く「まじめに物づくりを貫く」の心を一貫して守り続けたことに他ならないと感じています。これからも多様化する価値観の中で一早く新しい風を読み取り、お客様が求めている物を把握し形にしていく事が、次の 50 年への道につながる事と信じ精進して参ります。

あなたに出逢えて本当に良かった

代表取締役社長 植平秀次